

# 地区・地域の紹介 右京 うきょう

## 【新たな街づくりに向けて】

### 右京地区自治連合会

右京地区の中心軸であった旧右京小に代わり、平城3号近隣公園が地域の憩いの中心軸となって来た、その公園で「お月見会」が令和5年9月29日（金）に開催された。午後6時、平城3号近隣公園に集まった大勢の人々が御蓋山の頂きに現れた満月を見て一斉にカメラを向けて「来年も中秋の名月の会を開催してね」と大勢の方から励ましの声を頂いた。

右京の人口の38%弱が65歳以上の高齢者と云われるが、楽しいイベントには大勢の若い世代、子ども達も集まって来ます。以前は小学校を軸とした催しやすポーツ大会が行われましたが、今も面白いイベントを地域ぐるみで行うと年齢に関わらず多くの老若男女が集えて、新しい人との交流の場が出来上がります。

地域に住む人々が互いに交流できる機会を増やして地域内の風通しを良くして行くには地域の公園を利用したイベントの開催が大事ではないかと思います。「お正月のトンド焼き」、「春の花見会」、「第2団地での夏祭り」、「秋のお月見会」と「地域防災訓練」「年末お餅つき会」等を定着化してその輪を広げて行けるように地域からの協力とアドバイスを頂き促進して行こうと思います。

振り返ると、平城・相楽ニュータウン開発の一環として奈良北部の丘陵地が造成され「右京地区」が最初の産声を上げたのが1972年4月。地域内の自治会が1974年4月に立ち上がり「我が街右京」をみんなの力で創り上げ、育て上げて来て半世紀が過ぎました。この半世紀にわたり地域の為に活動して頂いた多くの方々から御礼を申し上げる次第です。

直近の右京の姿は2,454世帯、4,751人。右京地区を愛する人々が希望される事はこれから50年先の「我が街右京」を今以上に住み易く、安心で安全な緑豊かな街にして、新たな世代の人々にも期待されるような地域になる事だと思います。

令和7年頃には旧右京小跡を活用した住宅地に新しい入居者が来られる予定です。

新たな住宅街には新たな緑地エリアと大きな広場が

準備されます。地域内で安心して利用できる高齢者施設の開設も地域からの要請を受けて行政側と交渉しています。楽しく・心落ちつくシニアライフを住み慣れた地域内で過ごせることは願っても無い事です。伝統的に「我が街右京」はまとまりの良い所です。地域で活動する諸団体も互いに緊密な連携を取りながらの活動が永年続いています。このグループが生み出してきた右京独自の催しを今後も継続・実施する事で地域内の繋がりや輪を広げて、新しい住民も参加しやすい新しい輪へと広めてゆく事が大事な事だと思います。

地域の窓口として自治連合会がその役割を果たせるように運営して行かねばなりません。

新しい右京の街を地域住民からの協力を得ながら築き上げるための活動内容です。

●人々が集い・憩える公園は住宅内の貴重なオープンスペースです。

右京地区の「ピエロ公園」「平城3号近隣公園」「丸太公園」は他にも自慢できる素晴らしい公園です。永年、地域のグリーンサポート団体が環境整備活動を続けている公園です。安心して利用できる公園の環境整備をみんなで心掛けて行きたいです。

●人々が集い、話し合えるスペースとしてふれあい会館に加えて、体育館内のフリースペースも活用できるようになります。地域交流の機会を増やしたいです。

●「高齢化社会」への対策として「地域内の高齢者施設」を右京地区に設置する事で高齢者が安心して暮らせる街として施設運営に期待したいです。

●地域内で多彩な活動をしている活動諸団体との連携を保ちつつ各々の活動団体が自主的に地域内活動を推進する一方で、自治連合会は奈良市行政への窓口として地域からの要望点や改善点を自由に忌憚なく話合いの出来る関係を維持して行きたい。

このような活動が新しい右京の街を築き上げる一助となるよう期待しています。

とは云うものの当面の課題は高齢化社会への対応と新しい世代の勧誘で地区を活性化させること。これら

の活動に取り組み新たな右京へと変化する事を期待したいです。

## なら山万年青年クラブの歩み

なら山万年青年クラブは1978年（昭和53年）7月に設立されました。

当時は平城ニュータウンと言ってもまだ右京地区と神功地区のみで、人口も9千人弱でありました。その様な中での万年青年クラブの組織作りには大変な労力と努力があったであろうことは容易に想像出来ます。そして設立時に52名もの会員を集められたことは驚きです。

これまでの会員の皆様のご努力のお陰で、今日迄「なら山万青」を継続出来ているのは本当に素晴らしい有難い事です。継続は力なりです。現在「なら山万青」は会員70数名で、8つのクラブ（体育・マジック・カラオケ・マージャン・旅行・ハンドベル・詩吟・クラフト）が有り、それぞれが活発に活動しています。そして毎月（8月を除く）第2日曜日に常会を開き食事を楽しみ、アトラクションには他から講師を招いたり自分たちのクラブ（マジック・ハンドベル・詩吟）が出演して常会を盛り上げています。

当会の活動を継続するうえでの問題は高齢化です。（なら山万青会員の平均年齢2023年で83.42歳）今後この様に継続して少しでも若返りが出来るかそして発展させることができるかが大きな課題です。

## 「奈良市平城ニュータウンのあゆみ」を

### たどりながら――

#### 社会福祉協議会

「平城ニュータウン」に入居ははじまって10年、昭和57（1982）年に「平城ニュータウン地区社会福祉協議会」が発足した。

街の成長にあわせて「地区」は細分割され、「右京地区社会福祉協議会」が誕生した。昭和60（1985）年9月のことである。

平成10（1998）年に「右京地域ふれあい会館」が開設されて活動拠点が整った。小地域ネットワーク活

動、「見守りチーム」の発足は翌平成11年4月。平成12年から「ふれあいサロン」が定例化された。

さらに、「北福祉センター（旧称北老春の家）」が、平成16（2004）年1月に開設された「奈良市北部会館」に置かれて、地区社協の活動はさらに活発となった。奈良市総合福祉センターで行われていた「敬老の集い」は、ここで開催されるようになった。

現在「右京地区社協」を構成するのが、地区の3団体「右京地区民生児童委員協議会」「高の原地区万年青年クラブ連合会」「連合福祉たすけあいの会」、3つのボランティアグループ「われもこう」「オレンジカフェ右京」「右京団地ふれあいサロン」、そして、有志個人会員である。昭和56年に結成された「われもこう」は「ふれあいサロン」を運営するほか、地域福祉活動の原動力となってきた。

「ふれあいサロン」について、平成18年から「水曜喫茶室」、平成28年に平城右京団地集会所に「よしみち」が誕生した。その間、「オレンジカフェ右京」が平成27年に北福祉センターではじまる。到来した地域の高齢化にも備えようとするものであった。

第2団地のヤングママたちの「高の原ふれあい会」が平成2年にはじめた「高の原フリーマーケット」と共催してきたが、寄贈品の種類と質の変化が顕著となった。バザーの運営を担う、社協スタッフの体力の問題も深刻となった。

高齢者をつつみ込む街づくりを目標に右京地区の見守りチームが発足した平成11（1999）年、奈良市の65歳以上の高齢者率は14.4%であった。ほぼ四半世紀を経た本年、令和5（2023）年9月1日現在、右京地区では65歳以上が38.13%、75歳以上は22.96%。

令和2（2020）年1月6日、厚生労働省は、前年10月以降中国の武漢で新型コロナウイルスを確認。瞬く間に感染が拡大し全ての活動が休止を強いられたが、感染の波のあいだをぬって社協の活動はつづけられた。

そして、「敬老の集い」が2023年、4年ぶりに再開されるなど、少しずつ通常に復帰しつつある。

これからの社協は途絶えていた地域のみまもりの活動が大事になるだろう。おたがいが気づかいあうネットワークを穏やかに地域に広げることこそ、地域福祉の原点ではないか。